

隨想

今日の相談



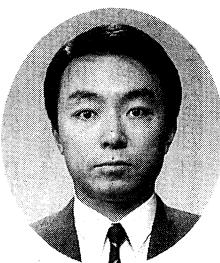
すいそう

すいそう

て話も

て話をした。生徒はよく話を聞いていた。

分校での日々



西の山並に太陽が沈み夕闇がせまる頃、空は濃紺から薄紫へと無限のグラデーションを見せ始める。そして無数の星が輝きだす。思わず校舎の外へ出て何度この空を見上げただろうか。

私が勤務する県立浪江高等学校津島分校は、生徒数百名、職員数九名のミニスクールである。平成二年四月、現在の大和久の地に鉄筋二階

は、学業、部活動、就職、進学、異性、身体、友人関係、家庭事情等々さまざまである。

授業中にこんなことがあった。突然、「先生、キツネ」と生徒が声を上げ、グランドの方を指差した。見ると一匹のキツネが平然とグランドを横切っていく。全員の関心がキツネに集中した。するとキツネもこちらを向いたのである。しかもキツネは

建の堂々たる近代校舎として新築移転した。昨年十一月には新校舎落成、創立四十周年記念式典が盛大に挙行された。一学年一学級ではあるが、ミニスクールならではの「生徒と職員のふれあい」が分校の大きな特色となっている。例えば生徒がいつでも自由に、気軽に出入りができるようになり職員室は開放されている。学習指導はもちろん、入退室の礼儀作法、言葉使い、頭髪、服装など常に個別に指導がおこなわれている。休み時間になると相談相手の職員との話を

生徒が、都市部では珍しい生物を近の川で汁だくになつて捕つてくれた生物部員。祖父が見つけた在来種のザリガニを持つてきたクラスの女子生徒。草刈りの際に捕えられたウシガエルも運びこまれた。

科学と科学技術は年々進歩している。その速度は人間を含む動物や植物の進化の速度をはるかに上回る。教科書の内容もまた変わる。抽象的概念や分子レベルの記述が徐々に増えていく。多くの人々が抽象的に自然を理解するようになり、実際の自然を知らずにいる。分校での授業や純朴な生徒とのふれあいを通して、変わらない自然の姿を伝えること、抽象でない生きた自然の姿を伝えることの重要性を改めて感じている今日このごろである。

「お母さん、お寺の土手にふきのと
うがあつてね、つくしんぼも出いで
たよ。」「あらそう、もう春なのね。ま
た、春探しをしなくちゃね。」

子供と共に

鳴原邦子

人にはいろいろな出会いがあります。子供はまず親と出会い、そして先生に出会います。初めて出会う先生の姿勢が、その子供に大きな影響